

各分掌の重点努力目標(具体的目標)

1 総務部

- ・生徒に創立90周年の意義を理解させ、自主的に諸事業へ参加できる態度を身につけさせる。
- ・各組織(90周年記念事業実行委員会等)の運営が潤滑に推進できるように取り組む。
- ・各種行事・事業の実施においては、円滑に遂行できるようにする。

2 教務部

学力向上を目指した、「組織で取り組む授業づくり」の実践

- ・学習のねらいに基づいた授業構成
- ・生徒の思考を促す授業展開
- ・キャリア教育を踏まえた学習指導の充実

3 研修部

- ・校内授業参観週間、校内一斉授業研究会等を通して研修意識を高める。
- ・連携を密にし、相互の授業研究会や講座等に積極的に参加する。

4 農場部

- ・専門性を深化させる学習が実践できるように支援するとともに、地域が抱える課題について、生徒自らが分析し、解決するための手だてについて考え、実践しようとする姿勢を身に付けさせる。
- ・職員がじっくりと専門教育の充実に取り組めるような、体制づくりに努める。

5 生徒指導部

- ・金農三生活信条の遵守する。
- ・服装指導を徹底する。
- ・礼法指導を徹底する。
- ・スマートホン・携帯電話の指導を徹底する。

6 特別活動部

- ・地域への貢献や交流活動を通して、社会性を身に付けさせるための指導の在り方を充実させる。(部活動でもキャリア教育を充実させる。)
- ・充実した学校行事を通しての自主性・社会性の育成と人間教育を育成させる。
- ・「スポーツ金農」「文化金農」として深化充実させる。
- ・生徒の人格や人権を尊重した信頼関係の構築と安全管理体系を図る指導を充実する。
- ・文武両道を実践し、生徒の能力を最大限に伸ばす指導を行う。
- ・同窓会との連携による事業の計画・立案をする。
- ・よりよい人材(タレント)の確保に努める。

7 進路指導部

- ・第一希望の民間企業の合格率86%を目指す。(昨年度 65/76 85.5%)
- ・国公立大学・専門性を生かした私立大学への進学者をそれぞれ進学者の10%とする。
- ・社会的・職業的に自立した人間力を身につけさせる指導を徹底する。

8 健康教育部(教育相談部)

- ・意識調査を実施し各学年で状況を把握し、学校生活をサポートする。
- ・「整理整頓」を徹底し、校舎を美しく維持する。
- ・自分自身の健康状況を把握し、心身を健やかに保つ。

9 教育相談部

- ・学年部や部活動顧問や保護者等からの生徒の情報を収集し、多角的に生徒の情報を把握する。
- ・支援を必要とする生徒には、本人の状況に応じた支援を図る。
- ・関係する職員と情報を共有し、組織的に検討し、他機関との連携を図る。

10 教育情報部

- ・授業を通してのモラルの醸成と、必要資料の提示・配布に努める。また、生徒指導部との連携によりより実効性を高める。
- ・年度当初、職員研修会を実施し、情報提供・啓蒙活動を行う。
- ・機会を捉え、webページの更新を行う。定期更新として各学期1回は更新する。
- ・パソコン室の利用促進を普通教科を含め利用促進を図り、機器の利用率を高める。

11 生物資源科

- ・実習現場での金農三生活信条の指導を徹底する。
- ・各種農業研修会への参加、各種イベント・あぐり交流館での農産物販売実習を積極的に実施する。
- ・長期インターンシップの充実と専門教科を活かしたインターンシップを実施する。
- ・各部門が課題研究を充実させ、プロジェクト学習に発展する研究内容になるように努力する。
- ・実験・実習時の安全指導、健康管理指導を徹底する。

12 環境土木科

- ・測量や土木に関する資格10名合格、各種競技上位入賞を目指す。成果展示や報告会などを実施する。
- ・関連企業・団体等の就職、関連学校の進学を目指し、公務員10名合格を目指す。
- ・学習や諸活動の目的や目標を明確に示して社会的・職業的な能力の育成を目指す。

13 食品流通科

- ・地域の課題を探究するとともに、改善に係る研究を推進する。
- ・学びを生かせる進路へ30%以上の決定を実現する指導を実施する。
- ・主体的な行動実践と安全確保に留意できる生徒を育成する。

14 造園緑地科

- ・学科対応で実習の整容指導や基本的生活習慣の徹底・確立を図る。
- ・先輩講話の充実と進路に関する早期動機付けや外部機関との連携協力を図る。造園、建築、土木、測量、設計と造園関連進路を広げる教育活動を行う。
- ・外部機関を活用し、造園技術の研修を実施して専門技術を深め、学科の特色を生かした資格取得の合格率を向上させる。

1 5 生活科学科

- ・実習室への入室、実習時の服装や態度の指導徹底し、ものづくりの楽しみと達成感の体得させる。
- ・食物調理・被服（和服・洋服）の各1級取得すなわち三冠王は3年文化コースは全員の合格を目指す。
- ・農業クラブ活動に自主的取り組み、高成績を目指す。
- ・産業教育フェア秋田大会での主幹校としての自覚を持って携わるよう自主性を促し、行動出来るようにする。

1 6 1年部

- ・年間の皆勤者を40%以上とする。
- ・基礎学力診断テストのDランクを入学時より減らす。
- ・希望する職業や職種を語れるようにする。

1 7 2年部

- ・年間の皆勤者を50%以上とする。
- ・家庭学習や進路に関するPDCAサイクルの定着を図る。
- ・マナー講座や就職講話、インターンシップ等を通じ、人間関係形成力を向上させる。

1 8 3年部

- ・学年全体の皆勤者が在籍数の50%以上とする。
- ・アフター10運動に積極的に取り組む。
- ・礼儀作法等を瞬間的に対応できるようにする。
- ・進路別模試や小論文模試の結果を活かし、進路指導部や各学科・教科との連携を密にし補習や小論文での指導を強化する。
- ・学年集会で各先生方から体験談などの情操教育講話を行い、生徒の人間性を養う。
- ・部活動の中心的学年としてリーダーシップを発揮し、牽引力と推進力を身に付け、昨年の結果より一つ上を目指す。

1 9 国語科

- ・さまざまな文章を読むことにより活字に慣れ親しみ、要点を押さえながら自らの思索に導くような語彙力と読解力を獲得する。
- ・進学・就職試験の課題論文・作文にしっかり対応できる力をつける。
- ・他者の話をよく聞く姿勢と、場面に応じた、聞き手に分かりやすい話し方を身につける。

2 0 地歴・公民科

- ・DVD、新聞、インターネットなどで知識や関心を養い、グループで話し合いや発表をさせる。
- ・18歳になったときに選挙で投票させる。

2 1 数学科

- ・授業に意欲的に参加する姿勢を促し、基礎基本事項の定着を図る。
- ・ワークの課題や週末課題の提出を徹底し、充実した家庭学習で、学力向上を図る。・ 考査前後の指導により弱点分析・克服を意識させ、各自の進路達成につなげる。
- ・補習を実施し、進学希望者のサポートをする。

2 2 理科

- ・様々な事象を観察する中で、基礎基本を定着させ、思考・判断力を養い、表現力を高める。
- ・専門教科との関連を図り、実験観察を最低月1回行うようにする。
- ・理科実験室の視聴覚機器の整備を進め、利用できる環境を整える。

2 3 英語科

- ・将来的に英語検定準2級のレベルにつなげることを意識しつつ、その土台となるための総合的な英語力の定着を目指す。同時に基本的な英語を用いて、即興で表現する(話す)ことができるような指導を行う。
- ・音読においては、意味を考えながら読む活動を行う。

2 4 保健体育科

- ・各種の運動の特性に触れる楽しみや喜びを味わうとともに、運動の学び方を身につけさせる。また、生徒が課題を自ら設定し、その解決に向けて主体的に運動に取り組み、自らフィードバックできるようにする。
- ・新体力テストの結果を生徒に周知し、自己の体力状況の把握や体力向上への関心を喚起する。また、授業において体力向上の為の運動を実施する。
- ・体育授業や体育的行事を通して、安全に対する態度や能力を育成し実践できるようにする。
- ・自分や周囲の健康課題において、適切な意志決定ができるように言語活動教育を通じて生徒の思考・判断力を高め育成する。

2 5 芸術科

- ・工夫して自分なりの表現をしようとする事ができる。
- ・芸術作品や友達の発表を鑑賞して良さを感じ、言葉にすることができる。
- ・歴史や芸術の構成、要素等、知的な活動に興味をもち、理解しようとする。

2 6 生徒会

- ・生徒一人一人の個性の伸長を図りながら主体的に自己実現を目指そうとする自己理解・自己管理能力を身に付けさせる。
- ・地域への貢献や交流活動を通して、社会性を身に付けさせる。
- ・生徒の能力を最大限に伸ばすことが出来るように支援する。
- ・目標を高く掲げ、その実現のために計画的に行動できる姿勢及び最後まであきらめずに取り組む姿勢を育成する

2 7 農業クラブ

- ・地域が抱える課題について、生徒自らが分析し、解決するための手だてについて考え、実践しようとする姿勢を身につけさせる。
- ・専門性を深化させる研究活動が実践できるように支援する。
- ・農業クラブ全国大会入賞数を3以上にする。